

令和3年度真岡市総合教育会議議事録

1. 日時 令和3年9月16日(木) 午後2時
2. 場所 本庁舎405会議室
3. 出席者
(構成員) 石坂市長
田上教育長、深谷教育委員、杉村教育委員、大島教育委員、佐藤教育委員
(関係者) 嶋田副市長
(事務局) 石崎教育次長、藤田学校教育課長、青柳生涯学習課長、野村文化課長、
長瀧スポーツ振興課長、風山学校給食センター所長、上野自然教育センター所
長兼科学教育センター所長、鈴木学校教育課教育政策係長、小林学校教育課
指導係長、仁平学校教育課情報教育推進係長、横山指導主事、橋本主事
4. 傍聴人 0名
5. 議題
(1)コミュニティ・スクールについて
(2)学力向上の取組について
6. 議事の内容
 - 1 開会
石崎教育次長 ただ今から、令和3年度真岡市総合教育会議を開会いたします。
本日の会議の進行を務めさせていただきます、教育次長の石崎でございます。
よろしくお願いいたします。
 - 2 あいさつ
石崎教育次長 はじめに、石坂市長からごあいさつをお願いいたします。

石坂市長 石坂市長あいさつ
 - 石崎教育次長 ありがとうございました。
ここからの議事の進行につきましては、真岡市総合教育会議設置要綱第3条
1項により、石坂市長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。
 - 3 議事
石坂市長 最初に本会議の議事録署名人を指名いたします。

杉村教育委員、大島教育委員を指名いたしますので、よろしく申し上げます。

次に本日の議題であります「コミュニティ・スクールについて」であります。皆さんからご意見等を伺う前に、事務局から説明をさせますのでよろしく申し上げます。

鈴木係長 コミュニティ・スクールについて説明をした。

石坂市長 ただ今、事務局より説明がありましたが、何かご意見がありましたら、お願いしたいと思います。

大島委員 コミュニティ・スクールについて平成 16 年からはじまっていて、全国でも約 30%の導入がされているということだが、真岡市ではまだ導入されていない。これには何か背景があるのか。

田上教育長 平成 16 年からスタートしても、導入がまだ3割ということは、やはりどこかにその課題があったと私も感じている。一つは学校運営協議会制度の任用面の課題。コミュニティ・スクールの学校運営協議委員が、人事面でも、要望を出せるという点で全国的に引っかかっていたと考えられる。もう一つは学校の負担。制度自体はすごくいいが、それをうまく運用させるための過程の中で、教職員が関わらなくてはならず、その負担が敬遠された一つの理由となっている。もう一つは人材の選定の難しさ。公務員の非常勤特別職になるため、人材選定が難しかった。そういう複数の課題があり、なかなか進まなかった。ところがつい最近、制度改正になりそれが緩和されたことで、導入率が上がってきている。真岡市でも、いつコミュニティ・スクールを考えるかということで、ずっとその課題を見極めてきたが、制度が大分緩和されたことで、令和 4 年度から導入することとした。

大島委員 学校評議員制度と両立してやっていくということになるのか

田上教育長 コミュニティ・スクールを導入した場合は、学校評議員制度と両方では学校の負担が大きいため、コミュニティ・スクール一本でやっていく予定。

佐藤委員 初めてこのコミュニティ・スクールというものを聞いたが、この先真岡市は、将来的なところどのように導入していこうと考えているのか。

田上教育長 まず、初めになぜ真岡東中学校に導入しようと思っているかということ、もともと地域と密接な関係にあり、学校だけで解決できない課題を学校運営協議会で

協議することで解決していくことができると考えたからである。今後も一気に全部の学校というわけではなく、導入に適した学校かどうかを見極めながらやっていきたいと思っている。

佐藤委員 PTAをやっている時に感じたことだが、地域に開かれた学校とよく学校側のことを言っているが、手伝っている人は一部の方が多い。ただ、地域にはもっと能力があったり、声かかれば手伝うよという潜在的な人がいると思う。学校から別に依頼もないし、やってもいいと思っているけど声掛からないからやらないみたいな人がいるので、そういう人達を拾っていくような仕掛けがあればさらに協力者は増えると思う。おそらく今も声はかかっていると思うが、実際届いてない。なかなか集まらないというのは、もう一押しが必要なのだと思う。

田上教育長 協力しようと考えている方がいらっしゃるというのは、学校にとってはすごくありがたい。どうやってそういう方に学校に協力をさせていただくかというのは、この学校運営協議会の中でも、積極的に仕掛けなどを議論・検討していくことになる。それはこちらでも期待することなので、ぜひやっていきたい。

佐藤委員 ボランティアとして手伝えるということはある程度、余裕のある人なのかなという感じがする。生活に一杯一杯の人は手伝いに来ないと思う。手伝いに来る人への謝礼というのがいるのかどうか疑問。苦しい中で、この少ない謝礼を出すのではなく、本当にボランティアでやってもらった方がいいと思う。

鈴木係長 学校運営協議会の委員さんに関しては非常勤の特別職になり、責任もあるため、他市の状況も鑑みて、年間1万円程度の報酬を来年度予算化し、お支払いする予定。学校支援ボランティア等実際にボランティアに来ていらっしゃる方に対しては無報酬になる。

深谷委員 私が住んでいる地域はいちご農家の方が多くて、PTAをやっていたときは、いちご農家のお父さんたちを含めて、様々なボランティアの方たちがいらしていた。コミュニティ・スクールではそういったボランティアの方にプラス学校運営協議会の委員さんを集めるということなのか。

鈴木係長 はい。学校運営協議会の委員は保護者の代表と地域の代表、学校の代表といった方が委員さんになっていただく予定。真岡東中学校を例にすると、地域の代表としては区長さん、民生委員さん、ほかの市の例でいうと公民館長さんなど。保護者の代表としてはPTA会長さん、学校支援ボランティアのリーダーの方。その他に地域コーディネーターの方などが入ってくる。学校の代表としては、

同じ学区の小中学校の校長先生などが委員に加わることになる。

深谷委員

ありがとうございます。今まで本当にそういう誰かが手伝うような形であり、きちんとした協議会を設ける形ではなかった。先ほど佐藤委員さんがおっしゃったように、出られるけどなあという保護者を含めた地域の方たちに、そういう啓蒙ができればいいと思う。ぜひ進めていただきたい。

杉村委員

今までも色々な形のボランティアが、様々なところで活動していた。ただ、長続きしないのは、例えば自分のお子さんたちが卒業してしまったりして、学校と関わりがなくなってしまうと立ち消えになってしまったということが非常に大きかったと思う。今後は学校運営協議会制度導入により、地域の代表の方や支援ボランティア、地域コーディネーターさんが間にしっかり入ることによって、立ち消えになってしまったり、なかなか続かなかつたりということがなくなると期待したい。

また、導入に当たっての一番の課題は、学校側の希望と地域ボランティアの希望のマッチングではないかと思う。地域の人はこれをやりたいが、学校は別のことをやってほしいなど、コーディネーターさんと、学校側とが連携する時間がうまくとれなくて、行き詰まってきてしまう可能性がある。学校側として、人が変わったとしても継続的に、学校全体で求めるものが、伝わっていくようなやり方を調整していく必要があるのでは。

ちなみに、学校運営協議会は、どの学校でも導入するのではなく、希望した学校のみ導入を進めていくのか。

田上教育長

先ほども少し話しましたように、一気に全校に入れるという考えではない。そこは十分に真岡東中での研究を踏まえて考えていきたい。

もう一つ杉村委員さんが心配していた、学校の希望とボランティアの希望がなかなか合致しないという点に関しては、文科省の考えでは、よく熟議をなさいとある。運営協議会の中では、何を学校が求めているか、或いはボランティアさんが何をやりたいかと、それをきちんと合意形成をしていくことが大事だと思う。ただそこで、学校の負担が発生しないよう、折り合いをつけながらこれからやっていかななくてはいけないと考えている。

その他、意見等なし。

石坂市長

議題1「コミュニティ・スクールについて」は以上とします。
次に、議題2「学力向上の取組について」を議題とします。
事務局から説明をお願いします。

- 横山指導主事 学力向上の取組について説明した。
- 石坂市長 ただいま、「学力向上の取組について」、事務局より説明がありましたが、説明に対し、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。
- 佐藤委員 AIドリルは、家での宿題にも使っているのか。
- 仁平係長 現在まだ持ち帰りを行う環境の整備が整っていないため、児童生徒は現在タブレットを持ち帰っていない。今後、災害時や緊急時に持ち帰るための検証は11月をめどに進めさせていただく予定。また、AIドリルはあくまでもタブレットに紐づいているアカウントのため、タブレットを持ち帰らない場合、自宅と同じアカウントを使ってもログインできない仕組みになっている。
- 佐藤委員 AIドリルは、教科の学力に応じて、出る宿題の量とかが変わってくるとすごくいい試みだと思う。これだと苦手教科の克服とかにも繋がっていくし、できる子は、得意教科はどんどん進めることができる。ただ、できる子は、例えば小学校3年生がもう全部できたら次の内容ができるとか、できない子は、詰まったときに、前に戻るみたいなことが必要ではないか。学力は積み重ねなので、そういうことができればどんどん学力が向上していくと思う。真岡市ではどのように進めているのか。
- 横山指導主事 真岡市の学力調査に結果に応じたAIドリルに関して、今の質問のとおり、できるお子さんにとっては発展的な内容に行くように設定されている。ただ、3年生であれば3年生の発展的な内容までであり、4年生にいく事は不可能。
ただ、できない、つまりきがあるようなお子さんの場合は下の学年にまで戻って復習ができるようになっている。
- 深谷委員 真岡市では、点数を取れるお子さんと、ちょっと難しい方の偏りがあるということが、結果として出ていることを、以前教育委員会内の会議で教えていただいた。また、私は地元の中学校の学校評議委員をやらせていただいているが、そのときも校長先生がそういうふうにおっしゃっていた。今後こういうAIドリルのソフトを使うと勉強できるお子さんは自分でどんどんやっていくことができ、ちょっとどうしたらいいかわからないお子さんでも、自分でそのAIを使って、やろうかなと思えるのではないかと思う。また、去年コロナで学校訪問がなく、今年久しぶりに学校訪問させていただいたが、その時に電子黒板の使い方など先生の授業力や工夫のされ方がその空白の1年でもものすごく進歩されていて、さすがだなと思っ

た。子供たちもそれにすごく適応していて、見なかった空白の成果がものすごいなどと思って、今後真岡市の子どもたちの学力がもっと向上するのではないかと、大変期待している。また、AIのドリルは学校なのではないが、もう少し楽しみながらできたらいいと思う。

大島委員 タブレットの管理、ID・パスワードというものはあるのか。

仁平係長 先日町田市でチャットのいじめが話題に上がったが、真岡市では個別 ID と個々のパスワードを 4 月に配布した。担任の先生がパスワードの管理を行っているが、必ずパスワードは個人で変更し、パスワードを誰にも教えないように、タブレットの使い方マニュアルも配布している。またパスワードは友達などに推測されないようなパスワードにするよう指導している。

杉村委員 タブレットの充電による火災発生について何か対策は行っているのか。また、学校から配布されたタブレットでいじめが発生していることから、マニュアルの内容が児童生徒にいきわたるように繰り返し指導をしてほしい。

仁平係長 充電については、現在 45 台を収納できる充電保管庫をクラス単位で設置している。充電保管庫の中にはタイマーを設置しており、常に充電状態ではなく、例えば夕方の時間帯 1 時間で充電するようなタイマーを設置している。したがって、夜中に火事の原因になるような発火は防げると考えている。また、いじめに関しては、現在、児童生徒同士がつながるようなメール・チャットができるアプリケーションは許可していない。あくまですべての児童生徒が先生の管理下に置かれて、何をしているのかわかる授業展開、学習時間を設けている。

杉村委員 今一人一人の学びが、すごく充実している。いろいろな機能を見させていただいて、興味関心をどんどん沸かせるようなスタイルで、非常に学力向上に期待できた。その反面、声を出して伝えるという部分がおろそかになるのではないかとこの点が心配。先ほど合同訪問の話が出たが、みんなマスクをしているので、声も聞きづらいと思う。コロナ禍だからこそ言いたいことをどうしたらわかりやすく伝えられるのか、少し力を入れて、各学校で先生たちに指導していただければと思う。

また、漢字の練習がタブレット上ででき、書き順とか、とめ、はらい、などというところまでしっかりと指導できるということだが、実際に、試験になると、やはりペン、鉛筆で書くことになる。小学一年生で、鉛筆を書くときに筆圧が非常に低くてかけないという児童もいるので、そういうところの指導はどこでやっていくかという心配がある。

田上教育長 今までの教育は書くことに重点を置いてやってきた。ただ、ここへ来て新学習指導要領で、主体的、対話的深い学びというのがクローズアップされることとなり、子どもたち同士が話し合う場面を多く設けるようになった。したがって学校は現在、新学習指導要領に沿った、主体的、対話的で深い学び、この授業をどうするかと授業改善に取り組んでいる。そうした授業改善によって、少しずつ、子どもたちの話す力も伸びていくのではないかと考えている。

もう一つの鉛筆の件は、本当に大きな課題であって、なかなか子供たちは上手く鉛筆が持てない、だから上手く文字も書けない、そういう課題が出ている。よって先生は低学年から、苦勞して鉛筆の指導、筆圧の指導を行っている。鉛筆の持ち方や鉛筆の使い方は、タブレットが入っても今まで通り指導していくので、ご安心いただきたい。

石坂市長 一つ私から教育長に質問したいのは、今杉村委員が言った対話、これは大事だと思う。生徒同士の対話の指導もちろん必要だと思うが、対話の苦手な先生も多いのではないか。そういう先生への指導はどうしているのか。

田上教育長 確かに大学の先生に何うと、事実コミュニケーションが苦手な方が、教員になっている。したがって、教育委員会としても、今働き方改革でなかなか研修ができない状態にあるが、努めてそういった先生の研修、教職 2 年目から 4 年目研修のというものを、真岡市独自で行っている。その中で指導主事が直接、先生方の授業を見て、コミュニケーションが不足な教員に対しては指導している。研修を通して、少しずつだが、対話が苦手な教員にも指導していきたいと考えている。

その他、意見等なし。

石坂市長 それでは質問もないようでございますので、この件については以上とさせていただきます。大変熱心にご協議いただきましてありがとうございます。

石崎教育次長 長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございます。

4. その他

石崎教育次長 次第の 4、その他であります。委員の皆様何かその他でお気づきの点ございましたら、お願いしたいと思います。いかがですか。

その他、意見等なし。

5 閉会

石崎教育次長 以上をもちまして、本日の議事のすべてを終了いたしました。皆様からいただいたご意見、ご提言につきましては、今後の教育施策に生かせるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和 3 年度真岡市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

6 閉会時間 午後 3 時 20 分